

「新収蔵作品展 2021」

—2019・2020 年度収蔵作品より—

2021 年 7 月 22 日(木・祝)～10 月 31 日(日)

I 期 7 月 22 日 (木・祝) ～9 月 5 日 (日)

II 期 9 月 11 日 (土) ～10 月 31 日 (日)



村上早《いぞん》2018 年

はじめに

アーツ前橋では、①地域ゆかりの作家の作品を中心にした収集、②美術館の諸活動に関連した作品の収集、③アートの創造力によって地域に貢献できる作品の収集という3つの方針に基づき、作品の収集活動を行ってきました。

9月11日からのⅡ期では、Ⅰ期から引き続き、各収集方針によって収集された代表的な作品を紹介するとともに、2019年度に収集した作品から、地域ゆかりの作家の絵画、彫刻作品を中心に、作家の活動や作品制作の背景などについてもあわせて紹介します。

本展を通して、鑑賞者の皆さまに収集作品の魅力に触れていただくとともに、アーツ前橋の活動についての理解を深めていただくことができれば幸いです。

開催概要

【展覧会名称】新収蔵作品展 2021 —2019・2020年度収蔵作品より—

【会 期】2021年7月22日（木・祝）～10月31日（日）

Ⅰ期 7月22日（木・祝）～9月5日（日）

Ⅱ期 9月11日（土）～10月31日（日）

【開館時間】10:00～18:00（入場は17:30まで）

【休 館 日】水曜日

【会 場】アーツ前橋 ギャラリー1（1F）

【観 覧 料】無料

【出 品 作 家】

<Ⅰ期・Ⅱ期共通> 2019・2020年度収蔵作品より

塩原友子 | イルワン・アーメット&ティタ・サリナ | 河口龍夫

<Ⅰ期> 2020年度収蔵作品より

田中正 | 野村誠 | 高橋武 | 長重之 | 鈴木のぞみ | 小森はるか + 瀬尾夏美 | 熊井淳一

<Ⅱ期> 2019年度収蔵作品より

笠木實 | 岩崎孝 | 村上早 | 島岡實 | 三谷慎 | 田中朝庸

関連イベント

「学芸員によるギャラリーツアー」

【日 程】9/18(土)、10/16(土)

【時 間】いずれも 14:00 から

【参加費】無料

※ 要事前電話申込 各回先着 10名 TEL 027-230-1144

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止・変更の可能性がありますので、当館HPまたはSNSで最新情報をご確認ください。

本展の見どころ

1. 近年の収蔵作品から、未公開の作品を中心に展示、紹介し、市民の財産である収蔵作品を間近で鑑賞する機会を創出する。一点一点に集中して鑑賞できる展示構成と、エピソードなども含めた解説によって、個々の作品の魅力に触れ、より身近に感じてもらう。
2. 開館時からの3つ収集方針にもとづき、継続的に行ってきた収集活動の紹介として、各収集方針を代表する作品を展示するとともに、当館で作品を収蔵する意義やその背景についてもあわせて紹介する。
3. 収蔵作品が当館のさまざまな事業（調査・研究、展覧会、地域アートプロジェクト、ラーニング・プログラム、収蔵後の修復など）と、どのような関わりを持っているのかを示し、収蔵作品を通して、当館の多様な活動についての理解を深めてもらう。

お問い合わせ先

アーツ前橋

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課

担当：塚（広報担当）、北澤、大井田（学芸担当）

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16

TEL : 027-230-1144 FAX : 027-232-2016 HP : <https://www.artismaebashi.jp/>

E-MAIL : artismaebashi@city.maebashi.gunma.jp

交通案内

●電車

JR 前橋駅北口から徒歩約 10 分

上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約 5 分

●自動車

関越自動車道 前橋 I.C から車で約 15 分



※地図内Pマークの駐車場のご利用に関しては、駐車券に割引処理いたします。

広報用画像

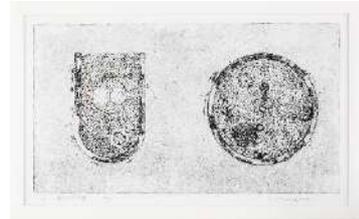
【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



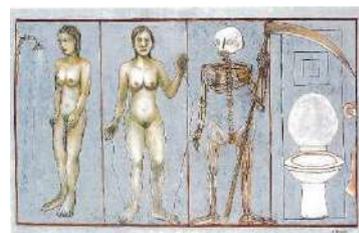
【7】



【8】



【9】



記事掲載についてのお願い

- ・掲載にあたっては、展覧会名称と会期を表記してください。
- ・画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。
- ・取材及び収録等の際は、必ず事前にお問い合わせください。

アーツ前橋企画展「新収蔵作品展 2021」 広報用画像申込書

アーツ前橋 広報担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○をつけてください。画像(JPEG)をメールにてお送りいたします。

*本展覧会の広報を目的とする場合に限り、提供致します。個人のブログ等への掲載や鑑賞等を目的とする場合には提供できません。

*掲載にあたっては、キャプション・クレジット等を正確に記載してください。

*以下2, 3, 9以外全て 撮影：木暮伸也（クレジット表記お願いいたします）

番号	キャプション・クレジット等
【1】	塩原友子 題不詳 1961年
【2】	イルワン・アーメット&ティタ・サリナ 《苦痛への信仰 (FAITH IN PAIN)》2017年-2019年
【3】	河口龍夫《消去された時間》1963年
【4】	笠木實《遊蝶の森》1995年
【5】	岩崎孝《話し合う四人》1982年
【6】	村上早《いぞん》2018年
【7】	島岡實《赤い花》1961年
【8】	三谷慎《JUNKO》1992年
【9】	田中朝庸《愛と死とに》2008年

媒体情報 *できるだけ詳しくご記入ください。

発行日：		発行元：	
貴社名：			
部署名：		担当者 名：	
所在地： 〒			
TEL：		FAX：	
E-MAIL：			

出展作家紹介(Ⅱ期出展作家)

塩原友子

1921年群馬県前橋市生まれ、2018年逝去。初期の作品には、写実的な風景や人物が中心に描かれているが、1960年代に入り日本画の変革を目指す「日本画研究会」に参加。その後は伝統的な日本画の素材を用い、日本の風土や美意識によって培われてきた線や色彩などを用いながらも、コラージュの多様な展開や版画的な技法、幾何学的な画面構成を取り入れるなど、伝統的な日本画の概念を越え、枠にとらわれない独自の表現を模索し続けた。2021年に生誕100年を迎えた。

イルワン・アーメット&ティタ・サリナ

イルワン・アーメット：1975年インドネシア生まれ、在住。ティタ・サリナ：1973年インドネシア生まれ、在住。2003年にアーメット・サリナ スタジオデザインを設立。2010年よりアートプロジェクトに着手。2017年にアーツ前橋滞在制作事業に参加。2015年「アジア・アート・ビエンナーレ」（国立台湾美術館／台湾）、2018年「つまずく石の縁—地域に生まれるアートの現場—」（前橋中心市街地）、2019年「闇に刻む光 アジアの木版画運動 1930s-2010s」（アーツ前橋）に参加。

河口龍夫

1940年兵庫県神戸市生まれ。多摩美術大学絵画科を卒業後、1965年にグループ〈位〉を結成。以来、現在に至るまで現代美術の最前線で活躍している。河口は鉄、銅、鉛、石、木、紙、種子など未加工の素材を用いて「時間」や「熱」といった目に見えないものを前景化させる作品を多数制作している。とりわけ「関係」は、河口の長いキャリアを統べる大きな作品テーマである。1974年、第1回井植文化賞受賞、2008年、第15回日本現代藝術振興賞受賞、2017年、第58回毎日芸術賞受賞。

笠木實

1920年群馬県桐生市生まれ。桐生中学卒業後、1937年東京美術学校（現・東京藝術大学）へ入学する。岡田三郎助に薫陶を受ける。1940年に日本版画協会において2600年賞を受賞。1942年に会員に推挙されるが、1949年に退会。1948年、29歳のとき南城一夫に出会い、春陽会に出品。1951年に春陽会賞を受賞。この頃、谷桃子パレエ団、松山パレエ団などの舞台装置を制作するほか、装丁や挿絵も手がける。1964年には松山パレエ団の美術監督として訪中する。また武蔵野美術大学では共通絵画研究室で26年間学生の指導を行った。

岩崎孝

1930年群馬県多野郡中里村（現・神流町）生まれ。1945年群馬師範学校予科へ入学、清水刀根に絵画を学ぶ。38年間にわたり美術教師として教鞭をとり、県内の美術振興や後進育成に貢献する一方、作家活動では、群馬県美術展や日本アンデパンダン展、日本美術会会員展などへの出品も多数。生涯をとおして、間近に接してきた女子高校生たちを描き続け、初期の労働をテーマとした作品からは社会的な問題への眼差しがうかがえる。2021年8月には岩崎孝遺作展（前橋市民文化会館）、作品集「IWASAKI TAKASHI (1930-2019)」が教え子たちによって企画、刊行された。

村上早

1992年群馬県高崎市生まれ。2016年、武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻版画コース修了。在学中の2013年に第38回全国大学版画展収蔵賞を受賞し、町田市立国際版画美術館に作品が収蔵される。2015年には第6回山本鼎版画大賞展（上田市立美術館、長野）出品の《息もできない》が大賞を受賞する。主な個展に、「Project N66 村上早」（2016年、東京オペラシティアートギャラリー）、「ours ours」（2017年、アンスティチュ・フランセ東京ギャラリー）、「gone girl 村上早展」（2019年、上田市立美術館）などがある。

島岡實

1919年群馬県前橋市生まれ、2014年没。早稲田大学を中退後、帝国美術学校（現・武蔵野美術大学）に入学、本格的に美術の道へ進み、創立当初から参加していた二紀会を中心に作品を発表し続けた。ヨーロッパの抽象絵画に戦後の自由な気風を感じ、抽象的な作風を模索するが、それに行き詰まりを感じた後は、写実を基盤とした作風を展開していく。1961年パリに留学し、ヨーロッパ各地を巡る中でスイスの風景の偉大さに心を打たれて風景画を制作するようになり、晩年には日本の風景も描いた。

三谷慎

1953年石川県輪島市生まれ。東京造形大学彫刻科卒業。卒業後、イタリアに渡り国立ローマ美術アカデミーでペリクレ・ファッツィーニに師事する。1987年から前橋市に移住。以後、本市で制作を続けている。神話をもとにした具象表現を特徴とする。1988年に県内では初の個展を前橋市民文化会館で開催し、同年に第12回上毛芸術奨励賞受賞。1993年に前橋文学館開館に伴い、《萩原朔太郎像》を同館前に設置するほか、市内外で多数のモニュメントを制作している。

田中朝庸

1930年群馬県前橋市生まれ。9歳のときに一家で高崎市に転居。以来高崎市在住。高校在学中に群馬美術協会展で受賞した作品が井上房一郎の目に留まり、その後現代美術研究所にて井上の薫陶を受ける。原爆ドームや戦闘機など負の絵画記号が挿入された人物群像の油彩画を多数制作する。1952年、自由美術家協会展佳作賞受賞、2007年、群馬県功労者賞、2010年、高崎市文化賞受賞。1993年より12年にわたり高崎市民展会長を務めるほか、2000年、群馬県美術会副会長、2011年群馬県美術会会長を歴任。